

# 2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて

大阪府・大阪市（2020年度選定）

## 1. 地域の特徴と課題及び目標

大阪は、わが国のほぼ中央に位置し、人口800万人を超える西日本の中心的都市であり、都市部には高層ビルのオフィスや商業施設が立ち並び、鉄道網をはじめ交通機関が発達している。2025年には大阪・関西万博が開催され、「未来社会の実験場」をコンセプトに地球規模の様々な課題に向け、世界各地から英知を集める場となる。大阪は万博開催都市として、課題を克服すべきゴールや世界に貢献できるゴールを「重点ゴール」に位置づけ、府民や企業など、あらゆるステークホルダーとの連携と協調により取組みを広げていく。

## 2. 関連するゴール



## 3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる大阪・関西万博の開催都市として、いのちや暮らし、次世代に関わるゴールに重点的に取り組みながら府民や企業、金融機関、経済界などあらゆるステークホルダーとの連携を広げ、一人ひとりがSDGsを意識し、自分なりの強みや課題を意識する中で、自律的に17のSDGs全ての達成をめざす「SDGs先進都市」を実現する。

## 4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

### ■ 自治体SDGsの推進に資する主な取組

- ・地域の支え合いと高齢者の活躍の場の創出
- ・海洋プラスチックや気候変動の問題解決に向けた環境技術イノベーションの戦略的な促進と普及に向けた取組み
- ・食品ロス削減対策の推進 など

### ■ 先導的なプロジェクト（大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト）

「G20大阪サミット」の象徴的レガシーである「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を先導する取組みとして、プラスチックごみ問題解決に向け、経済、社会、環境の三側面から、3R（リデュース、リユース、リサイクル）などの普及啓発や、海岸漂着ごみの実態調査、海ごみの回収、プラスチックごみの資源循環などに取組む。

## 5. 取組推進の工夫

府内においてSDGsの取組みを先導する自治体、経済団体、国の関係機関及び金融機関などの協力関係の強化を図ることにより、会員間の連携促進や地域の特性にあわせた取組みの推進につなげることを目的に大阪SDGsネットワークを設立している。

## 6. 取組成果

### ■ 自治体SDGsの推進に資する主な取組

地域の支え合いと高齢者の活躍の場の創出に向け、ええまちプロジェクトにより、団体支援を13件実施した。  
環境・エネルギー先進技術の普及を促進するため、令和5年度に作成した先進技術が普及した未来社会の姿を見せる動画等のコンテンツについて府民向けイベント等を通じ広く発信した。  
10月の食品ロス削減月間を中心に、食品ロス削減に積極的な事業者やボランティアと連携し、消費者啓発を行った。また、多様な主体の連携・共創を促すため、事業者交流会を開催した。

### ■ 先導的なプロジェクト（大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト）

2024年度は、『三側面をつなぐ統合的取組』として、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向けて大阪府・市が共同策定した「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画に基づき、プラスチックごみの海洋流出抑制に関する取組を推進した。とりわけ、取組成果を象徴的に体現する事業「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト」では、実施地域の拡大を進めたところ新たに13地域（累計167地域）が参加した。さらに、海洋プラスチックごみの削減をめざす大阪の先進的な取組について、国連環境計画国際環境技術センター等と連携して国際会議等で発信した。

## 7. 今後の展開策

海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術の府域での普及シナリオや課題解決手法等の調査・検討、海ごみの実態調査、各種啓発活動等を実施し、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に寄与するため、プラスチックごみ問題解決に向けた取組みを推進していく。また、「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト」においては、引き続き、地域に参加を働きかけ、参加者を増やしていく。

## 8. 他地域への展開状況（普及効果）

大阪府内全域に「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト（大阪市）」を展開していくため、府内市町村を対象とした「令和6年度第2回一般廃棄物にかかる情報交換会」（2025年1月）において当該システムの周知を行った。